

食料産業局長賞

豊明花き株式会社 (愛知県豊明市)

鉢物
切花
資材

・香港
・シンガポール
・オーストラリア
・ドバイ
・ロシア など

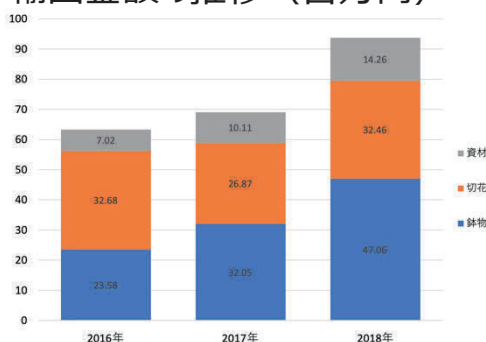
市場機能を生かし高品質な日本産花きを輸出

取り組み内容

- 国内花き生産額 1 位の愛知県、多様な品目を生産する長野県を懐に抱え、全国の生産農家らを主軸に関係機関や団体が参画する（一社）日本植物輸出協議会を組織し、日本の花き産業を発展させるために輸出拡大を目指している。
- 中部国際空港、名古屋港等との連携によって輸出拠点としての機能を構築。また、市場内で受検できる出張検疫を全国に先駆けて実施。
- 海外でイベントの主催、国際展示会や見本市への出展を行う。また生産者を同行したり日本の産地へ海外バイヤーを招いたりなど独自のプロモーション活動を実施。

輸出実績の推移

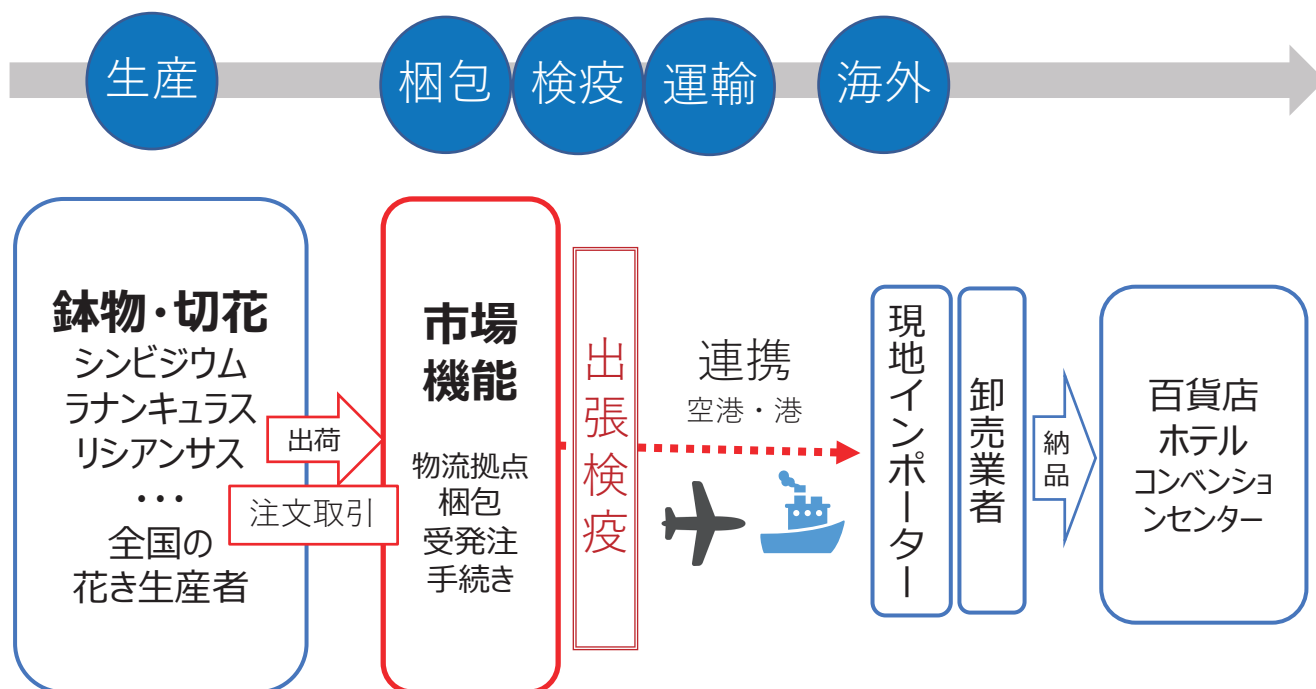
輸出金額の推移（百万円）



輸出量の推移（kg）



輸出の仕組みチャート



輸出に取り組んだ背景

- 日本国内の花き需要は減少している。
- 日本の花き生産の高齢化や減少が進む一方、他国にはない丁寧で手間を惜しまない高度な生産技術が確立されている。日本産花き商品のこの品質の高さは独自の価値として広く知られ、海外ニーズは大きい。
- 市場でリパック業務を行うため、多品目、小ロット、多頻度での細かな海外ニーズへの対応が可能。

課題と解決のポイント

✋ 敷地内で検疫

輸出に不可欠な植物検疫は、通常はその都度空港や港で行われるが、パッケージの開梱や再梱包によって商品へのダメージや時間のロスが大きい。

名古屋植物防疫所の協力によって輸出される商品を市場内で一括検疫できる仕組みを構築した。
(2018年121回実施)
また輸出専用の保冷作業所、冷蔵庫を完備した。

✋ 空港・港と連携

海外輸出の窓口となる地元の中部国際空港、名古屋港が輸出利用の大多数を占めている。手間のかかる花き輸出においては綿密なコミュニケーションが必要。

空港、港と連携し情報共有を密に行うことで安定的な輸出拠点の創出ができた。少量多頻度出荷に対応できる輸出体制を構築しトラブルにも対応できる。
(2018年空路279回出荷)

✋ 多様なプロモーション活動

海外でのプロモーションは、一企業、一生産者ではコストがかかり、PR活動にも制限がある。

輸出協議会を組織化。これにより国際展示会への出展、日本産花きを使ったデモンストレーションやワークショップ、生産地に海外バイヤーを招聘するなどブランドの確立に向けて組織立った普及啓蒙活動を行う。



海外で人気のシンビジウム



出張検疫・冷蔵庫



国際見本市に出展



生産地にバイヤー招聘

今後の展望

- 2016年には社内に国際取引課を設置し専属のスタッフを配置。長期的な視野に立ち、輸出を事業の柱として成長させるべく体制の構築を行っている。
- 国内向けに制作した独自のインターネット取引システムに輸出用の機能を付加、拡張させ、国外のバイヤーもインターネットからの発注が可能に。受発注システムをさらに高機能化、効率化する予定。
- 生産者の輸出に対する認知度が低い中、関心を高めるために生産者のための輸出セミナーを開催。より多くの生産者が輸出に取り組めるようにし、花き産業の発展を目指す。